



© 坂野充学

アペルト3

坂野充学 可視化する呼吸

2016年1月30日(土) →
5月8日(日)

若手作家の展覧会シリーズ「アペルト」第3弾。

石川県白山市鶴来の伝承をもとに、文化交流の本質を映像インスタレーションで表現。

展覧会名	坂野充学 可視化する呼吸		
企画	鷺田めるろ(金沢21世紀美術館 キュレーター)		
会期	2016年1月30日(土) → 5月8日(日)		
	開場時間 / 10時~18時(金・土曜日は20時まで)		
	休場日 / 毎週月曜日(ただし、3月21日、5月2日は開場)、3月22日、5月6日		
会場	金沢21世紀美術館 長期インスタレーションルーム	料金	入場無料
主催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]	後援	白山市、鶴来商工会
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800		

展覧会について

本展では、坂野充学が2012年に制作した5面のスクリーンによる映像インスタレーション《Visible Breath》を展示する。坂野は、1977年石川県鶴来町(現白山市)に生まれ、同地で育ち、現在は東京と石川を拠点に活動する映像作家である。坂野は東ロンドン大学で美術と映像制作を学び、帰国後、映像による作品を制作してきたが、近年、地元鶴来の祭りなどの伝統に関心を持つようになった。その調査を受けて生まれたのが本作品である。「鶴来」が「剣」と同音であり、鉄の生産を通じて古代から出雲や大陸との交流があったことをモチーフに制作された。鶴来の伝説に坂野の解釈をちりばめたフィクショナルな内容で、文化の交流をめぐって、見る人の様々な想像力を喚起する。

鷲田めるろ(金沢21世紀美術館 キュレーター)

「アペルト」シリーズとは

「アペルト」は、若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会のシリーズです。

金沢21世紀美術館は世界の「現在」とともに生きる美術館として、今まさに興りつつある新しい動向に目を向けています。作家とキュレーターが作品発表の機会を共に創出し、未来の創造への橋渡しをします。

国籍や表現方法を問わず、これまで美術館での個展や主要なグループ展への参加経験は少ないが、個展開催に十分な制作意欲を持ち、アペルト実施以後のさらなる飛躍が期待できる作家を紹介していくものです。

※「アペルト(aperto)」は、イタリア語で『開くこと』の意味。

作家ステートメント

慣れ親しんだ風習、無意識のうちに生活の一部となった伝統、これらを始めたのは一体誰なのか、そしてその人はいつどこからやって来たのか。

遙か遠くからやってきた異質な文化の種はいつの間にかその地に根を下ろし、元あった慣習と溶け合いながらもどこかに息を潜めてその形を留めているかもしれません。

私の郷里へ対する根源的な感覚。それと遠く離れた世界を接続する私的な旅は、1人の民俗学研究者との出会いにより具体的なイメージへと可視化されました。

私はつくること、視覚化することを通じてこれからも変容と継承を繰り返し、日々更新されながら刻々と変化していく世界をみつめていくのだと思います。

坂野充学



坂野充学《Visible Breath》2012
アーツ千代田3331での展示風景

作家プロフィール

坂野充学 SAKANO Mitsunori

1977年石川県鶴来町(現白山市)生まれ。2000年東ロンドン大学美術学科卒業。現在は東京、石川を拠点に活動。近年はフィールドワークを通して出会う希有な人物の視点をもとに、特定の土地の歴史や記憶を視覚化するプロジェクトを中心に行う。また2014年にプロジェクト/スペースMITSUME(東京)を立ち上げ、アートプロジェクト、展覧会の企画、運営を中心とした活動を行う。主な個展に2013年「appearing」(關渡美術館、1/2 1F ギャラリー、台北)、2012年「Visible Breath」(アーツ千代田3331、メインギャラリー、東京)、2007年「beep deep beep」(プロジェクトスペースKANDADA、東京)ほか。

3



関連プログラム

アーティスト・トーク(予定)

[日時] 2016年1月30日(土)16:00~17:30

[会場] 金沢21世紀美術館レクチャーホール

[料金] 入場無料

「鶴来現代美術祭アーカイブ展」

[会期] 2016年1月26日(火)~5月8日(日)

[会場] 金沢21世紀美術館アートライブラリー

「鶴来現代美術祭」は、1991年より1999年まで鶴来を舞台に7回にわたって開催された。特に1995年までは、金沢市の姉妹都市であるゲント市の現代美術館の館長であり、1992年のドクメンタのコミッショナーもつとめたヤン・フートが企画に関わった。それにより、国際的なアーティストが鶴来に滞在し、鉄加工業など地元の職人の協力を得て制作を行うことが実現した。

鶴来現代美術祭は、近年各地で盛んに開催されている地域の芸術祭の先駆的な事例である。開催事務局を地元の商工会青年部が担い、制作にも協力したことも特徴で、それが可能となった背景には、「造りもの」で有名な地域の祭り「ほうらい祭り」での協働作業が伝統的に続いてきたことがある。

本アーカイブ展では、鶴来商工会に残る紙資料や記録写真・映像の展示を中心に、新たに関係者へのインタビューを行い、その記録映像を公開する。鶴来現代美術祭に関する資料の散逸を防ぐこと、そして、そこで起きたことを知ることを通じて地域と芸術の関わり方について考察することが本展の目的である。また、坂野充学は鶴来の出身で中学生のときに鶴来現代美術祭を体験したことで作家を志した。本展は坂野の作品の背景を理解する助けともなるだろう。

4



「ヤン・フート IN 鶴来」チラシ
1991年、坂本善昭蔵

5



「ヤン・フート IN 鶴来 PART II」
ヤン・フートとアーティストによるウォーキングトーク、1994年、鶴来商工会提供

広報用画像

画像1～7を広報用にご提供致します。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: press@kanazawa21.jp

<使用条件>

※広報用画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを必ずご表示ください。

※トリミングはご遠慮ください。キャプション等の文字が画像にかぶらないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正用原稿を広報室へお送りください。

※アーカイブの為、後日掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



《Visible Breath》2012
スチル写真



《Visible Breath》2012
スチル写真